

苺の暖候期管理について(No.2)

R2.3 アグリ技研(株)

本年は、暖冬傾向で推移をして苺の生育もバラツキを見ている、今後も高温の予想です、草丈の徒長抑制と品質維持を主管理に努めましょう。

1.主管理項目について

①草丈の抑制(徒長防止対策)

・草丈の徒長は、果梗枝が細くなり果実の肥大減になります。

②茎葉や果実の整理

・玉出しや芽の整理、摘果などで果実の肥大促進と品質向上。

③施設内の適正管理

・高温対策や電照調整、炭酸ガスの適正な管理。
・高温期にかけての遮光対策(極端は光合成の鈍化)。
・水管理、肥料施肥の適正化に努める。

2.一般的な管理について

①温度管理

・日中は26℃～28℃(午後)を保ち夜温は6℃をキープする。
・炭酸ガス施用中での日没加温(3時間)は実施する。
・降雨時の高温(暖雨)の早朝は施設を開けて徒長抑制する。

②水管理

・温度上昇と共に吸水・蒸散量は増すので少量多灌水とする。
・地温15℃前後で吸水量は増す1株200～250cc

③電照

・芯葉の葉柄の高さを確認して時間調整する。(3/中旬迄)
・芯葉の展開が鈍化傾向の場合は、早朝電照とする。

④炭酸ガス施用

・サイド面の開閉時までは施用する。
・春先でも果実の多い場合は施用することで効果あり。

⑤防除

・ダニ、アザミウマの的確な防除を行う(収穫期の延長)。

⑥茎葉の管理

・生育に応じた玉出し、摘果作業で果実や葉に受光を良くした品質向上。

3.施肥管理について

①果実肥大を良好にする施肥

「10a当り施肥量」

「光合成作用で生成した養分を分配するには水分とカリ肥料です」

【果実肥大促進・日持ち対策】

・カリッと⇒7～10日置きに1kgを灌水処理
・ウルル18号⇒5～7日置きに5kgを灌水処理
・コラーゲン・ラボやウルル2号と併用は300gを混用処理

【根域の維持対策】(P、Ca、微量元素の吸収力アップにも)

・アミクエ⇒7～10日置きに5～10kg灌水処理

【果実の硬化や日持ち、ガク枯れ対策】

・新カル元氣⇒5～7日置きに2～3kg灌水処理
・葉面散布の場合には、1000倍処理
・有機カルトップ⇒7～10日置きに300g灌水処理

【徒長抑制・果実肥大促進対策】

・PKゴー⇒5日置きに2000倍の葉面散布
・灌水処理の場合には、300～500g処理

【食味向上・生育安定対策】

・コラーゲン・ラボ⇒5～7日置きに5～10kg灌水処理

【生育促進対策】

・ウルル2号⇒5～7日置きに5～10kg灌水処理

地温(15℃)の上昇と共に吸水量やN吸収量は高くなります。